

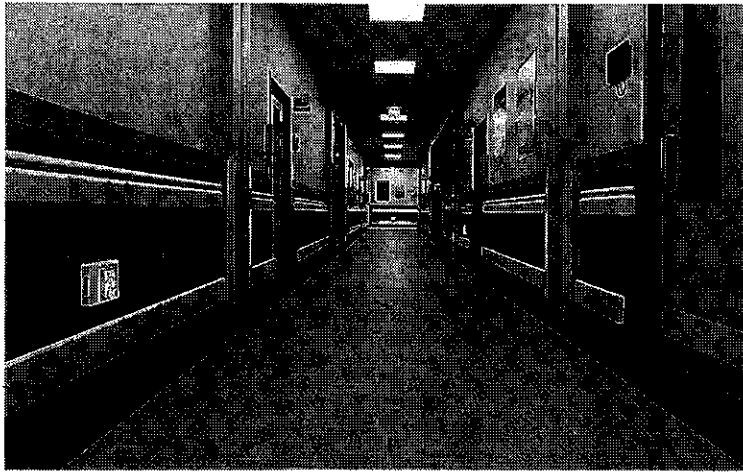
関東大震災から100年 医療機関の危機管理とは

②

株式会社日本防災研究センター
人と防災未来センターリサーチフェロー(医学博士)

古本尚樹

医療機関の災害対応 BCP(業務継続計画)は、いわゆる医療機関の



施設内での「避難」のほうか、混乱を回避できることも(写真はイメージ)

が、他の企業向けと異なるのは、利用者(入院患者や通院患者等)への支援比重が高いことである。とりわけ老健施設ではそれへの重きはかなりのウェイトを占めスタッフの支援負担も大きくなる。これは日本の置かれた社会的課題と、複合的な課題が医療機関にはますます大きくなっていることが背景にある。コロナ禍においてもその感染症そのものへの対応とそれ以外の診療の両立は難しく、結果としてスタッフの負担が大きくなり、ひいては利用者のアクセスが困難になった。

医療機関の機能分化で、その対応は変わるが、前提となるのは利用者(入院患者)の安全を担保したうえでの被災者支援である。なお、外来を閉める(再開する)

医療機関の災害対応 職員の二次災害を防ぐ支援も

流れは、入院患者の安全↓可能な患者は退院↓診療科の全部を開けるのか、一部を開けるのかといった判断をすることが基本である。生命の危機がある患者の治療は継続、そして、透析など継続治療が必要なものも維持。生命が逼迫した患者の手術以外は中止。入院患者の症状改善治療は継続する必要がある。

医療機関のBCPについて、自身の顧問経験も踏まえて改めて解説すると、電気・ガス・水道のみではなく、医療資機材や食料(いわゆる病院食)のことも事前に考慮する必要がある。医療機関内は企業等とは異なり、本来外へ逃げる(水平避難)が安全な場合も、必ずしもそうではないことがある。下手に移動するよりも、病院内が安全ならほそそれを生かして、そのまま施設内での「避難」

のほうか、混乱を回避できることも少なくない。備品の中で特筆すべきは、電源に関するところである。何時間分もつか、これは補給の用途をも立っておく。また医療資機材と燃料や酸素の補給に ついても優先的に考え、サーバーネットワークを確立する。

災害時の患者トリアージは災害医療のキーワードの1つだが、医療機関が災害時に何を優先して対応するかも、直接患者ケアも重要である。職員は何人確保できるか、職員の交代要員はどうか、職員の二次被害をどう防ぐか、過労防止・適切な休息に関するサポートについては、事前の準備が重要である。

(参考) 災害時の病院対応について 伊藤 辰哉
[https://www.takamatsu-jrc.or.jp/ar-chives/010/201411-chies.pdf](https://www.takamatsu-jrc.or.jp/ar-chives/010/201411-chies/010/201411-chies.pdf)